

# Magic xpi インストールガイド



OUTPERFORM THE FUTURE™

The information in this manual/document is subject to change without prior notice and does not represent a commitment on the part of Magic Software Enterprises Ltd.

Magic Software Enterprises Ltd. makes no representations or warranties with respect to the contents hereof and specifically disclaims any implied warranties of merchantability or fitness for any particular purpose.

The software described in this document is furnished under a license agreement. The software may be used or copied only in accordance with the terms and conditions of the license agreement. It is against the law to copy the software on any medium except as specifically allowed in the license agreement.

No part of this manual and/or databases may be reproduced or transmitted in any form or by any means, electronic or mechanical, including photocopying, recording or information recording and retrieval systems, for any purpose other than the purchaser's personal use, without the prior express written permission of Magic Software Enterprises Ltd.

All references made to third-party trademarks are for informational purposes only regarding compatibility with the products of Magic Software Enterprises Ltd.

Unless otherwise noted, all names of companies, products, street addresses, and persons contained herein are part of a completely fictitious scenario or scenarios and are designed solely to document the use of Magic xpi.

Magic™ is a trademark of Magic Software Enterprises Ltd.

Btrieve® and Pervasive.SQL® are registered trademarks of Pervasive Software Inc.

IBM®, Topview™, System i5®/System i®/IBM i®, pSeries®, xSeries®, RISC System/6000®, DB2®, WebSphere®, Domino®, and Lotus Notes® are trademarks or registered trademarks of IBM Corporation.

Microsoft®, FrontPage®, Windows™, WindowsNT™, ActiveX™, Exchange™, Dynamics® AX, Dynamics® CRM, SharePoint®, Excel®, and Word® are trademarks or registered trademarks of Microsoft Corporation.

Oracle®, JD Edwards EnterpriseOne®, JD Edwards World®, and OC4J® are registered trademarks of the Oracle Corporation and/or its affiliates.

Google Calendar™ and Google Drive™ are trademarks of Google Inc.

Salesforce® is a registered trademark of salesforce.com Inc.

SAP® Business One and SAP® R/3® are registered trademarks of SAP AG in Germany and in several other countries.

SugarCRM is a trademark of SugarCRM in the United States, the European Union and other countries.

Linux® is a registered trademark of Linus Torvalds.

UNIX® is a registered trademark of UNIX System Laboratories.

GLOBETrotter® and FLEXIm® are registered trademarks of Macrovision Corporation.

Solaris™ and Sun ONE™ are trademarks of Sun Microsystems Inc.

HP-UX® is a registered trademark of the Hewlett-Packard Company.

Red Hat® is a registered trademark of Red Hat Inc.

WebLogic® is a registered trademark of BEA Systems.

Interstage® is a registered trademark of the Fujitsu Software Corporation.

JBoss™ is a trademark of JBoss Inc.

GigaSpaces, GigaSpaces eXtreme Application Platform (XAP), GigaSpaces eXtreme Application Platform Enterprise Data Grid (XAP EDG), GigaSpaces Enterprise Application Grid, GigaSpaces Platform, and GigaSpaces, are trademarks or registered trademarks of GigaSpaces Technologies.

Clip art images copyright by Presentation Task Force®, a registered trademark of New Vision Technologies Inc.

This product uses the FreeImage open source image library. See <http://freeimage.sourceforge.net> for details.

This product uses icons created by Axialis IconWorkShop™ (<http://www.axialis.com/free/icons>)

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>).

This product includes software developed by Computing Services at Carnegie Mellon University (<http://www.cmu.edu/computing/>). Copyright © 1989, 1991, 1992, 2001 Carnegie Mellon University. All rights reserved.

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>).

This product includes software that is Copyright © 1998, 1999, 2000 of the Thai Open Source Software Center Ltd. and Clark Cooper.

This product includes software that is Copyright © 2001-2002 of Networks Associates Technology, Inc All rights reserved.

This product includes software that is Copyright © 2001-2002 of Cambridge Broadband Ltd. All rights reserved.

This product includes software that is Copyright © 1999-2001 of The OpenLDAP Foundation, Redwood City, California, USA.

All Rights Reserved.

All other product names are trademarks or registered trademarks of their respective holders.

Magic xpi Installation Guide - Magic xpi 4.13.1

Copyright © 2021 by Magic Software Enterprises Ltd. All rights reserved.

# Contents

## 1 Magic xpiのインストール

インストールを始めましょう.....	6
ウェルカム画面.....	8
インストールディレクトリ.....	8
インストールタイプ.....	9
プログラムフォルダーの選択.....	9
機能の選択.....	10
xpi システム構成.....	10
データベース.....	13
JDKフォルダの選択.....	18
サマリー画面.....	18
インストールウィザード完了.....	18
インストール後にデータベーススクリプトを手動で実行する.....	19
手動インストールとMagic Monitorサーバサービスの開始.....	21
言語サポート.....	23

## 2 Magic xpi の Files

Magic xpi インテグレーションプラットフォームのファイル.....	24
64-Bit サポート.....	26

## 3 コンポーネントの設定

Directory Scanner.....	28
Domino.....	28
Dynamics AX 2012.....	29
Dynamics CRM.....	29
Email.....	29
Encryption.....	30
Exchange.....	30



OUTPERFORM THE FUTURE™

File Archive .....	30
File Management .....	30
File Splitter .....	30
FTP .....	30
Google Calendar .....	31
Google Drive .....	31
HL7 .....	31
HTTP .....	31
IBM i .....	32
JD Edwards Enterprise One.....	32
JD Edwards World .....	32
JMS .....	32
LDAP .....	32
Magic xpa Utility .....	33
Microsoft Excel .....	33
Microsoft Word .....	33
MQTT .....	33
MSMQ .....	33
.NET Utility .....	34
Notes DB .....	34
OData .....	34
REST Client .....	34
Salesforce .....	35
SAP A1 .....	35
SAPB1 .....	35
SAP ERP .....	35
ServiceMax .....	36
SharePoint .....	36



OUTPERFORM THE FUTURE™

Sugar .....	36
TCP Listener .....	36
Validation .....	36
WCF Client .....	37
WebSphere MQ .....	37
XML Handling .....	37
XSLT .....	37

## 4 Magic xpi インストール後の作業

MSSQLの設定 .....	38
GigaSpacesの確認 .....	39

## 5 Magic xpi ライセンス

ライセンス管理 .....	40
ライセンスタイプ .....	41
Magic xpi ライセンスファイルのインストール .....	42
ライセンス Features .....	43

## A システム前提条件

システム前提条件 .....	44
開発環境 .....	44
実行環境 .....	44
データベース前提条件 .....	45

# 1 *Magic xpi*のインストール

この章ではMagic xpi のインストールプロセスの各ステージについて説明します。

- インストールを始めましょう
- 言語サポート

## インストールを始めましょう

Magic xpiをインストールする前に以下をご確認ください。:

- Magic xpi サーバがサポートされている内部データベースにアクセスできることを確認します。
- システムがMagic xpi 前提条件を満たしているかを確認します。( [Appendix A, システム前提条件](#) を参照)。
- インストールは管理者権限を持ったユーザで行ってください。
- .NET Framework 4.0 がコンピュータにインストールされていることを確認してください。
- 過去バージョンとMagic xpi 4.13は同一筐体にインストールできますが、同時に実行することはできません。
- Magic xpi 4.13は過去バージョンからのアップグレードを推奨しません。過去バージョンがインストールされている場合、インストーラはアップグレードのメニューを表示しますが、その場合はアップグレードを選択せず、過去バージョンをアンインストールしてからMagic xpi 4.13を新規にインストールしてください。
- Local Agentのインストール、および環境設定は、弊社サポートサイトのダウンロードページより「Local Agentの使い方」をご参照ください。。



OUTPERFORM THE FUTURE™

**i** Magic xpi をスペースを含むフォルダーにインストールする際は、8dot3name サポートを有効にしておかなければなりません。

インストールする前に、8dot3nameが有効かどうかを確認してください。確認するには、Administrator権限でコマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを実行します。:

**fsutil 8dot3name query <インストールしようとするドライブ>**

例えば、CドライブにMagic xpiをインストールする場合は、次のコマンドを実行します。:

**fsutil 8dot3name query c:**

**fsutil** ユーティリティは **C:\Windows\system32** に存在します。もしコマンドが見つからない場合は、まず、**system32** フォルダーに移動してください。

コマンドの結果であるボリューム状態が**0 (8dot3名の作成は有効です)**で、レジストリの状態が**既定値の2(ボリューム単位で設定します)**なら8dot3nameは有効でインストールを続行することができます。

8dot3nameが有効でない場合、Administrator権限で以下のコマンドを実行します。:

**fsutil 8dot3name set <インストールしようとするドライブ> 0**

例えば、Cドライブに対し8dot3name を有効にするなら、次のコマンドを実行します:

**fsutil 8dot3name set c: 0**

設定を有効にするためにコンピュータの再起動が必要になる場合があります。

[http://en.wikipedia.org/wiki/8.3\\_filename](http://en.wikipedia.org/wiki/8.3_filename)

これでMagic xpi のインストールを行うことができます。



## ウェルカム画面

Magic xpiインストールウィザードを実行すると、**ウェルカム画面**が表示されます。

**次へ**ボタンをクリックすると**使用許諾契約画面**が表示されます。内容を詳細にご確認の上、契約に同意する場合は**次へ**ボタンをクリックし、**インストール先選択画面**を表示します。

すでにMagic xpi がインストールされている場合、**次へ**ボタンをクリックするとアップグレード処理が始まります：

- **変更**：このオプションを選択して**次へ**をクリックすると、**機能の選択画面**が表示され、インストールに必要な変更を加えることができます。
- **削除**：このオプションを選択して**次へ**をクリックすると、Magic xpiがマシンからアンインストールされます。

## インストール先フォルダ

**インストール先選択** 画面でMagic xpi をインストールするフォルダーまたはディレクトリを入力します。デフォルトではMagic xpi は**C:\Magic xpi x.x** フォルダにインストールされます。このディレクトリにインストールするには、**次へ**をクリックします。Magic xpiを別の場所にインストールする場合は、**参照**をクリックして必要な場所を選択します。インストールウィザードで選択を確認するメッセージが表示されます。**次へ**をクリックして次の画面に進みます。

そして誰がアプリケーションを使用できるのかを指定します。次のいずれかのオプションを選択します。：

- **このコンピュータの全てのユーザ**
- **現在ログインしているユーザのみ (Administrator)**

- **i** Magic xpi を空のフォルダーにインストールする必要があります。
- (あるいは)のような特殊文字がインストールパスに含まれている場合、GigaSpacesは動作しません。例：C:\Program Files (x86)

**次へ**をクリックし、**セットアップタイプ画面**を開きます。



## インストールタイプ

この画面で、以下のセットアップタイプを選択します。:

- **標準(推奨)**:このオプションを選択すると、Magic xpiインストール用のショートカットフォルダが自動的に作成されます。また、[機能の選択](#)画面に表示されるすべての機能は、デフォルトでインストールされます。この画面の後、[GigaSpacesの設定](#)画面に直接移動します。
- **カスタム**:このオプションを選択すると、[プログラムフォルダの選択](#)画面が開きます。必要なフォルダ名を選択すると、[機能の選択](#)画面が表示され、インストールする機能を選択することができます。

## プログラムフォルダの選択

この画面では、**プログラム**メニューに表示されるMagic xpi ショートカットの名前を入力することができます。デフォルトの名前が表示され、これを変更することができます。選択したプログラムフォルダがすでに存在する場合は、新しいショートカット名を入力するかどうか尋ねられます。**Yes**を選択すると、プログラムフォルダを変更できます。**No**を選択すると、選択したプログラムフォルダが既存のプログラムフォルダを置き換えます。この画面は、Setup Type画面でCustomを選択した場合にのみ使用できます。この画面は [セットアップタイプ](#) 画面で**カスタム (Custom)**を選択した場合にのみ使用できます。

次へをクリックして**機能の選択**画面を開きます。



## 機能の選択

この画面ではインストールするMagic xpiの機能を決定します。機能は以下の通り：

- **Internal DB:** コンピュータにMagic xpi 内部データベースをインストールします。
- **GigaSpaces:** コンピュータに GigaSpaces インフラストラクチャをインストールします。
- **Server:** 統合プロジェクトを実行するMagic xpi サーバ。
- **Studio:** コンポーネントツールキットを含むMagic xpiスタジオ。
- **Monitor:** プロジェクト実行時にモニタリング機能を提供するMagic xpi モニタサーバ。
- **Sample Projects:** さまざまなMagic xpi の機能を理解するのに役立つ一連のサンプルプロジェクトをインストールします。
- **Requesters:** Java および .NET リクエスタをインストールします。

この画面は、[セットアップタイプ](#) 画面で**カスタム(Custom)**を選択した場合、または既存のインストールを変更する場合にのみ使用できます。**次へ**をクリックしてこの画面を終了し、**GigaSpacesの設定**画面に移動します。

## xpiシステム構成

GigaSpacesインフラストラクチャは、大量のデータをメモリに格納するために連携する複数のマシンインスタンス（物理または仮想）上で実行される複数のサーバープロセスで構成されているため、高性能、弾性スケーラビリティ、フェイルセーフ冗長性を実現します。この画面では、GigaSpacesインフラストラクチャの詳細を設定できます。

インストールでは、GigaSpacesの4つの関連項目の構成が提供されます。システム容量やサイズ、要件に従って構成してください。

**パーティション：**スペースに作成するデータパーティションの数。追加されたパーティションは追加のスペース容量に変換されます。これは各PU、MAGIC\_SPACEとMG\_INFOに反映されます。



**i** 小さいクラスターに対して高い値を設定するとパフォーマンスが低下する可能性があるため、注意して設定してください。

**バックアップ**：各パーティションに必要なバックアップインスタンスの数。これらのバックアップは、パーティションに障害が発生した場合の回復用に設計されています。そのような場合、バックアップは自らペースを取って、新しいバックアップインスタンスを生成します。

**i** パフォーマンス全体にオーバーヘッドが発生するため、注意してバックアップを追加してください。

**xpi Server メモリ**：MB単位で設定します。実行中の各xpi サーバインスタンスに対するJVMのメモリ割当を設定します。

**コンテナ メモリ**：最大値を定義します。各コンテナに割り当てられるメモリを設定します。コンテナはパーティションやバックアップを保持します。

このウィザードによって提供される推奨設定は、一般的なユースケースのシナリオに基づいており、すべてのユースケースに最適であるとは限りません。プロジェクトの設計と要件に基づいて微調整してください。今後の作業で、追加の労力をほとんどかけずに、これらの値を後の段階で変更することもできます。

インストールでは、上記の設定画面でデフォルトの3つの構成が表示されます。これらの構成は、デフォルトの構成値とともに以下にリストされています。

設定項目	開発（小）	本番（中）	本番（大）
パーティション	1	1	2
バックアップ	0	1	1
xpi Server メモリ（MB）	512	3072	4096
コンテナ メモリ（MB）	512	1024	2048

これらの値はチェックボックス「開発マシン カスタマイズ」にチェックを入れると変更できるようになります。

値が推奨値を超えると、システムはそれに応じて警告およびエラーメッセージを表示します。システムがパーティション、バックアップ、xpiサーバーメモリ（MB）、コンテナメモリ（MB）のそれぞれについて警告メッセージとエラーメッセージをスローする制限を次の表に表示します。

設定項目	警告	エラー/最大値
パーティション	>3	5
バックアップ	>2	5
xpi Server メモリ (MB)	>4096	制限なし
コンテナ メモリ (MB)	>4096	制限なし

GigaSpacesは、Windowsサービスとしてインストールできます。これを行うには、チェックボックス[**Grid Service Agent (GSA) をサービスとしてインストール**]にチェックを入れます。これにより、Magicxpiのインストールプロセス中にGSAサービスがマシンに自動的にインストールされます。GSAサービスの名前とルックアップロケータは、それぞれ[サービス名]フィールドと[ルックアップロケータ]フィールドに表示されます。

上述の**GigaSpaces** の構成画面でGigaSpaces GSA サービスのインストールを自動インストールを選択しなかった場合、以下のコマンドでサービスのインストール、アンインストールを手動で行うことができます。:

- **Install\_GSA\_service.bat** (GSAのインストール)
- **Uninstall\_GSA\_service.bat** (GSAのアンインストール)

これらのファイルは以下のフォルダーに配置されています。:

**<Magic xpi インストール先>\Runtime\OS\_Service\scripts**

Windows 7以降のオペレーティング システムでは、管理者権限にてこれらのコマンドを実行する必要があります。

この画面での設定が完了したら、**次へ**ボタンをクリックし、**データベースサポート**画面を表示します。

## データベース

データベースサポート画面で、今すぐデータベーステーブルを作成するスクリプトを実行するチェックボックスをオンにすると、インストール中にデータベースのテーブルスペースとテーブルを作成します。このチェックボックスを選択しない場合、インストール中にテーブルが作成されず、後で手動でテーブルを作成する必要があります。

サポートされているデータベースの詳細については、[互換性ガイド](#)(PDFファイル)を参照してください。

**注:** MSSQL JDBCドライバ(JARファイル)のみ、Magic xpiインストールの一部として提供されています。他のDBMSを使用する場合は、そのDBMS用のJDBCドライバのjarファイルが必要です。

内部データベースとして他のDBMSを使用するには:

1. JDBCドライバ jarファイルを以下のフォルダにコピーします。:  
**<Magic xpi インストール先>\Runtime\java\DatabaseDrivers**
2. **datasource.xml** ファイルにデータベース設定を指定します。**datasource.xml**で定義された**driverClassName**がJDBCドライバと互換性があることを確認します。

次に、Magic xpiの内部データベースとして使用するデータベースを選択します。Magic xpiは以下のデータベースをサポートしています:

- [MSSQL](#)
- [Oracle](#) (OCI 32-bit のみ)

データベースを選択後、**次へ**をクリックして選択したデータベースの接続情報を入力します。この画面で、[DBパーティション]チェックボックスを選択することにより、OracleおよびMS-SQLデータベースのパーティション化サポートを有効にできます。データベース情報を入力したら[次へ]をクリックし、データベーステーブルスペースと選択したデータベースのテーブルを作成します。

- i** ● [DBパーティション]チェックボックスを選択する前に、データベースがパーティション化をサポートしていることを確認してください。明確でない場合は、選択しないでください。
- Magic xpiインストーラーは**db**という名前のサブフォルダーをDB スクリプト格納用に作成します。Magic xpi がサポートしているDBMS毎に



サブフォルダーが作成されます。データベースを後でインストールすることを選択した場合は、これらのスクリプト(必要なデータベースの下)からインストールすることができます。各フォルダーにはスクリプトの実行方法について説明されている**Read me**ファイルが準備されています。手動インストールを行う前に、Magic.iniファイル、Datasources.xml、およびその他の場所にあるデータベースへの参照が正しいことを確認してください。

- Oracle 19c の場合は、Magic xpiのインストール時に[スクリプトを実行してデータベーステーブルを構築する]チェックボックスをオフにし、セットアップを完了します。その後、Magic xpi インストールフォルダ\DBフォルダーの下にある関連するバッチファイルを実行して、データベースを手動でインストールします。

Magic xpiのインストール中に内部データベース作成に関するエラーが発生した場合、ログファイルが各DBMSフォルダー毎に作成されます。

## パスワード暗号化

Magic xpiは、インストール中に構成された内部データベースのパスワードの暗号化をサポートします。

Magicxpi 4.13.1以降をインストールする場合、インストーラープロセスは内部データベースのパスワードを自動的に暗号化します。暗号化されたパスワードは、インストールが完了するとdatasource.xmlファイルに反映されます。

- i** 後でパスワードを変更する場合は、Magicxpiヘルプファイルの「データベースパスワードを変更する方法」ページを参照してください。

## MSSQL

MSSQLを選択すると、データベースサポート画面が開きます。

- i** Magic xpiをインストールする前に、**SQL ServerとWindows認証モード (MSSQLサーバ特性ダイアログボックスのセキュリティセクション)**が選択されていることを確認してください。インストール処理中にMSSQL内部データベースを自動的に作成したい場合に使用します。

Magic xpi をインストールするコンピュータにデータベースがインストールされている場合、サーバの名称 フィールドにはコンピュータ名が設定されています。デフォルトは<コンピュータ名>\SQLインスタンス instance(存在する場合)です。

リモートデータベースサーバで使用する場合、**選択** をクリックし、**サーバー一覧** を開きます。**サーバー一覧**からデータベースがあるコンピュータ名を選択し、**選択** をクリックし、**サーバー一覧** を閉じます。

SQL Server資格情報を使用してデータベースを認証するには、**Windows認証**チェックボックスをオフのままにして、データベースのユーザー名とパスワードを入力します。ユーザ資格情報によって、ユーザとデータベースを作成するための十分な権限が与えられていることを確認する必要があります。Windows認証情報を使用してデータベースを認証するには、**Windows認証**チェックボックスをオンにします。

内部データベースをWindows認証モードで作成する場合は、次のようにデータベースを手動で構成する必要があります。:

1. **datasource.xml** ファイル (<Magic xpi インストール先>\Runtime\config に存在)で、**username** と **password** プロパティを削除します。例、以下のテキストを削除します。:  
**username="magicxpi4\_1" password="MagicPass#3"**
2. **;integratedSecurity=true** を **url** プロパティに追加します。例、ファイルは以下のテキストのようになります。**username** と **password** が削除され、赤字のテキスト部分が追加されます。:

```

<datasources>
  <datasource id="1" hibernate.default_schema="dbo"
    hibernate.dialect="org.hibernate.dialect.SQLServerDialect"
    hibernate.default_catalog = "magicxpi4_1"
    driverClassName="com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver"
    url="jdbc:sqlserver://AVI-8-
LP\SQLEXPRESS:1433;databaseName=magicxpi4_1;integratedSecurity=true"/>
</datasources>

```

Windows認証モードを使用する必要があり、GigaSpacesインフラストラクチャが64ビットJVMを使用するように設定されている場合は、次のように<Magic xpi インストール先>\Runtime にある2つのファイルの名前を変更する必要があります。:

1. **sqljdbc\_auth.dll** ファイルのファイル名にテキストとして**\_32bit** を追加します。新たなファイル名は**sqljdbc\_auth.dll\_32bit**となります。
2. **sqljdbc\_auth.dll\_64bit** ファイルのファイル名からテキストの**\_64bit** を削除します。新たなファイル名は**sqljdbc\_auth.dll**となります

**i** 後でデータベースをインストールすることを選択した場合、データベースに関する環境変数は**magic.ini**ファイル内に作成されますが、いくつかの環境変数はセミコロンでコメントにされています。

例えば、Oracleの場合、**magic.ini** ファイル内の  
DB\_SERVER\_NAMEは以下のようにコメントになってしまいま  
す。:

```
;DB_SERVER_NAME=dbservername
```

次へをクリックし、次の画面に進みます。



## Oracle

データベースサーバが別のコンピュータにある場合は、**選択** をクリックして **サービス一覧**を開きます。**サービス一覧**から、データベース用にアクセスするOracle データベース クライアントの名前を選択します。クライアントを選択し、**選択**をクリックします。**サービス一覧**を閉じ、データベースのユーザ名とパスワードを入力します。スキーマを作成するのに十分な権限がユーザ資格情報に与えられていることを確認する必要があります。

- i** Oracleを内部データベースとして構成する場合、Magic xpiは実行時に Oracle Thin Clientを使用します。インストールでは、スキーマと表の作成にOracleクライアントのインストールを必要とするfat clientが引き続き使用されます。

**datasource.xml** ファイルでは、データソースURLは次の構文を使用します:

```
jdbc:oracle:thin:@<tns_entry>
```

例:

```
jdbc:oracle:thin:@MyTNSAlias
```

さらに、インストール時に**TNSNAMES.ORA**ファイルのフォルダへのパスを含む**oracle.net.tns\_admin jvm**引数を使用し、

```
GigaSpaces/bin/ magicxpi-setenv.bat >
```

```
ADDITIONAL_OPTIONS プロパティを更新します。例:
```

```
set ADDITIONAL_OPTIONS=%ADDITIONAL_OPTIONS% -  
Dcom.magicsoftware.ibolt.home=%MAGIC_XPI_HOME%\ ru  
ntime -Doracle.net.tns_admin=$ORACLE_HOME/  
network/admin
```

### Oracle Databaseを使用する場合の前提条件

- ・ 64ビットのOracleクライアントと32ビットのOracleクライアントをインストールする必要があります。
- ・ OracleクライアントのインストールにJDBC Oracleドライバーが含まれている必要があります。

次へをクリックし、次の画面に進みます。



## JDKフォルダの選択

この画面でJava Development Kit (JDK) のインストールパスを入力します。Magic xpi はこの画面で入力したフォルダにインストールされているJDKを使用します。

次のJDKのインストールフォルダを設定してください。

### 1. JDK 1.8 (32Bit) フォルダ

Java Development Kit (JDK) 1.8 32Bitバージョンがインストールされているフォルダを指定します。

### 2. JDK 1.8 (64Bit) フォルダ

Java Development Kit (JDK) 1.8 64Bitバージョンがインストールされているフォルダを指定します。

Magic xpi インストーラは、この画面でユーザが選択したJDKフォルダへのリンクをインストールフォルダ内に作成します。

## サマリー画面

Magic xpi インストールウィザードがMagic xpi のインストールの準備が完了したことがサマリー画面に表示されます。インストール設定を変更する必要がある場合は、**戻る** をクリックして前の画面に戻ります。準備ができれば、**次へ** をクリックしてインストール処理を開始します。

## インストールウィザード完了

インストールウィザードが正常にインストールを完了すると、**インストール完了**画面が開きます。この画面には、次の3つのチェックボックスがあります。:

- **はい、ReadMe ファイルを表示します:** リリースノートを開くにはこのチェックボックスを選択します。
- **はい、Magic xpi を直ちに起動します:** Magic xpiを開くにはこのチェックボックスを選択します。
- **はい、MSSQL ログファイルを表示します:** MSSQLログファイルを開くにはこのチェックボックスを選択します。

**完了** をクリックし、インストールウィザードを終了します。



- Magic xpi 4.13を既存のバージョンのxpiと一緒にインストールした後、ベースバージョンまたは古いバージョンをアンインストールすると、オペレーティングシステムの拡張子.mgxpiprojおよび.slnのファイルの関連付けが失われます。スタジオが再起動された後、関連付けは再確立されます。
- 古いバージョンのMagicxpiのすべてのサービスは停止され、これらのサービスの起動タイプは手動に設定されます。サービスはいずれか一つのバージョンで実行されている必要があります。

## インストール後にデータベーススクリプトを手動で実行する

Magic xpi のインストールには、データベース定義用のスクリプトを実行するオプションがあります。インストーラはスクリプトを db というサブフォルダにコピーし、その中に Magic xpi がサポートする各データベースのための入れ子になったサブフォルダを作成します。ユーザーは、後の段階でデータベース定義をインストールすることもできます。これは db フォルダの下にあるバッチファイルを使用して行うことができます。

- 手動インストールを行う前に、Magic.ini ファイル、Datasources.xml およびその他の場所のデータベースへの参照が正しいことを確認してください。
- 移行スクリプトは、必要に応じて、プロジェクトを実行する前にすぐに実行してください。後から実行すると、データの整合性に問題が生じる可能性があります。
- パーティショニングのサポートは、MSSQL と Oracle データベースに対してのみ追加できます。データベースのインストールでパーティショニングが有効になっていることを確認してください。
- MS-SQL に基づいて Standard または Enterprise エディション、またはシステムにインストールされている Oracle バージョンを選択してください。
- DBA は、現在使用されている製品タイプを決定できます。特に要件がない場合は、Standard エディションを選択してください。

データベースの変更をインストールするためのバッチファイルは RunDB.bat、変更をロールバックするためのバッチファイルは DropDB.bat です。バッチファイルに必要なパラメータの一覧については、バッチファイルと一緒に提供される Readme.txt を参照してください。



これらのバッチファイルは、各データベースフォルダ下にあるスクリプトを実行します。MSSQL および Oracle データベースのスクリプトファイルは Enterprise フォルダおよび Standard フォルダの下にあります。

**パーティショニングのサポートは、MSSQL と Oracle データベースに対してのみ追加できません。データベースのインストールでパーティショニングが有効になっていることを確認してください。**

## MS-SQL

バッチファイルを使用して MSSQL データベースをセットアップする方法について説明します。

1. コマンドプロンプトを起動します。
  2. Magic xpi インストールフォルダ\DB フォルダに移動します。
  3. コマンドラインで、**RunDB.bat** を下記の引数で実行します。
- %1: SQL Server名
  - %2: Admin権限を持つデータベースユーザ名
  - %3: パスワード
  - %4: データベース認証 Windows認証 : 1、その他 : 2
  - %5: データベースタイプ MSSQLとタイプする。大小文字区別。
  - %6: データベースパーティション データベースパーティションをサポートする場合 : 2、その他 : 1
  - %7: データベース名
  - %8: データベースユーザ名
  - %9: サーバポート番号。無効な場合は""

### 例

```
RunDB.bat "MAGICXPIMCN\SQL19STD" "sa" "sa@123" "2" "MSSQL" "1" "MGXPI413" "MGXPI413" ""
```

## Oracle

バッチファイルを使用して MSSQL データベースをセットアップする方法について説明します。

1. コマンドプロンプトを起動します。
  2. Magic xpi インストールフォルダ\DB フォルダに移動します。
  3. コマンドラインで、**RunDB.bat** を下記の引数で実行します。
- %1: Oracle Server名 (tnsnames.oraに定義されたサーバ名)
  - %2: Admin権限を持つデータベースユーザ名
  - %3: パスワード
  - %4: 常に""
  - %5: データベースタイプ Oracleとタイプする。大小文字区別。
  - %6: データベースパーティション データベースパーティションをサポートする場合：2、その他：1
  - %7: データベース名
  - %8: データベースユーザ名
  - %9: サーバポート番号。無効な場合は""

### 例

```
RunDB.bat "ORCL" "scott" "tiger" "" "Oracle" "1" "MGXPI413" "MGXPI413" "1521"
```

## 手動インストールと**Magic Monitor** サーバサービスの開始

### *Magic Monitor* サーバサービスのインストール

インストールの完了後、<Magic xpiインストールフォルダ>\Runtime\OS\_Service\scripts フォルダに移動します。このフォルダには以下が含まれます：

- Magic xpi GSA (Install\_GSA\_service.bat) と Magic Monitor Server (Install\_MagicMonitor\_services.bat) サービスのインストールスクリプト。
- Magic xpi GSA (Uninstall\_GSA\_service.bat) と Magic Monitor Server (Uninstall\_MagicMonitor\_services.bat) サービスのアンインストールスクリプト。

次に、以下を行います：

1. コマンドプロンプトを開きます。(管理者権限で)
2. <Magic xpiインストール先>\Runtime\OS\_Service\scripts フォルダに移動します。
3. Install\_MagicMonitor\_services.bat スクリプトを実行します。  
これでMagic Monitor Serverサービスがインストールされます。
4. Windowsのサービス画面を再表示し、Magic Monitor Serverサービスがインストールされていることを確認します。

Magic Monitor Serverサービスを開始する前に、GigaSpaces関連の設定 (LOOKUPGROUPS や LOOKUPLOCATORS 変数)が以下のフォルダにある runwebmonitor.bat ファイルに正しく設定されているかを確認してください。：  
<Magic xpi インストール先>\Runtime\RTView\magicmonitor

これは手動で確認するか、以下のファイルを実行することで確認します。：  
<Magic xpi インストール先  
>\Tools\MgxpiLookupUpdater\MgxpiLookupUpdater.exe

## **Magic Monitor** サーバサービスの開始

Windowsのサービス画面を開き、そこから**Magic Monitor Server**サービスを開始することができます。



## 言語サポート

英語以外の文字をビジネスプロセス、フロー、ステップの名前および説明の中で使用することができます。プロジェクト、リソース、サービス、変数の名前は、英語の文字またはマシンの言語でのみ記述できます。

Magic xpi日本語版のデフォルト言語は日本語です。他言語での使用はサポートされていません。以下の設定を確認します。:

- **Magic.ini** ファイルの**ConstFile**パラメータ。例えば、日本語の設定では以下ようになります。:  
**ConstFile =C:\Magic xpi x.x\Runtime\Magic xpa\mgconstw.chn**
- **Magic.ini** ファイルの**External Code Page** の設定(日本語は932)
- コントロール パネル > 地域と言語オプション > 形式
- **Unicode対応でないプログラムの言語のシステムロケール** プロパティはコントロールパネルの地域と言語設定の管理タブにあります。

# 2 *Magic xpi* のファイル

---

この章では各Magic xpi のモジュールのファイル構造を説明します。Magic xpiの各種関連ファイルの保守を行うための情報を提供します。

## Magic xpiインテグレーションプラットフォームのファイル

Magic xpi インテグレーションプラットフォームのインストールには、スタジオ、コンポーネント、サーバ、およびモニターモジュールを含むすべてのMagic xpi インテグレーションプラットフォームの全ファイル、およびMagic SoftwareのMagic xpa アプリケーションプラットフォームのフルインストールが含まれています。

**i**

- .NET 4.5.2 が必須です。Magic xpi が自動的にインストールします。



OUTPERFORM THE FUTURE™

以下の表はMagic xpi ルート フォルダ配下の各フォルダの内容を説明したものです。

フォルダー	内容
<b>db</b>	内部データベースインストールを手動実行する際に使用するデータベーススクリプト。
<b>Extra</b>	サンプルプロジェクトを含むサブフォルダー。
<b>Help</b>	Magic xpi ドキュメントフォルダー。
<b>Runtime</b> フォルダ配下:	
<b>addon_connectors</b>	ユーザ定義コンポーネントがこのフォルダに作成されます。
<b>config</b>	スペースの設定およびプロジェクトを実行するための各種設定ファイル。
<b>Gigaspaces</b>	コンピュータでスペースを実行するための各種ファイル。
<b>Gigaspaces-xpi</b>	追加のGigaspaces-xpiフォルダーが作成されます。このフォルダーには、すべてのMagic xpiカスタマイズスクリプトとjarが含まれます。
<b>Icons</b>	Magic xpi コンポーネントが使用する画像がすべて格納されています。コンポーネントを開発した際は、このフォルダに画像を追加してください。
<b>ifclib</b>	各コンポーネントのソースファイルが格納されています。各コンポーネントはコンポーネントと同じ名称の別個のフォルダに格納されています。このフォルダ配下のファイルはMagic xpiスタジオでコンポーネントの設定時に使用されます。
<b>java</b>	Magic xpi JavaクラスとJARファイルが格納。
<b>Logs</b>	プロジェクト実行時に作成されるログファイルが格納されます。
<b>scripts</b>	Web関連スクリプトが格納されています。Webエイリアスがこのフォルダを参照しています。後述の64-Bit サポート セクションを参照してください。
<b>Temp</b>	Magic xpiが動作時に使用する一時ファイル格納先。



フォルダー	内容
<b>Magic xpa</b> フォルダ配下:	
<b>Gateways</b>	データベースゲートウェイ。
<b>Messaging</b>	メッセージキューイングに必要なファイル。

**i** Magic xpiをインストールするとシステムの**Common Files**フォルダ配下の**Magic xpi**フォルダにいくつかのファイルを保存します。このフォルダを削除してはいけません。

## 64-Bit サポート

Magic xpiをインストールすると、32ビットのリクエスター DLLが**scripts**フォルダにインストールされます。さらに **32bit**、**64bit** の2つのサブフォルダが作成され、それぞれのDLLが格納されます。



OUTPERFORM THE FUTURE™

# 3

## コンポーネントの設定

この章ではコンポーネントのセットアップ要件について説明します。

• Directory Scanner	• Microsoft Excel
• Domino	• Microsoft Word
• Dynamics AX 2012	• MQTT
• Dynamics CRM	• MSMQ
• Email	• .NET Utility
• Encryption	• Notes DB
• Exchange	• OData
• File Archive	• Salesforce
• File Management	• SAP A1
• File Splitter	• SAPB1
• FTP	• SAP ERP
• Google Calendar	• ServiceMax
• Google Drive	• SharePoint
• HL7	• Sugar
• HTTP	• TCP Listener
• IBM i	• Validation
• JD Edwards Enterprise One	• WCF Client
• JD Edwards World	• WebSphere MQ
• JMS	• XML Handling
• LDAP	• XSLT
• Magic xpa Utility	



# Directory Scanner

特別な準備は必要ありません。

## Domino

### 【クライアントAPI 使用時：V5.5 以降をサポート】

Domino コンポーネントを使用するには**Lotus Notes** クライアント VR5.5以降がマシンにインストールされていなければなりません。加えて以下の情報を取得しておく必要があります。:

- Notesサーバ名
- Notesデータベース名とパスワード

Dominoコンポーネント使用前に以下を実行/確認してください:

- **Notes.jar**ファイルを<Magic xpiインストール先>\Runtime\Java\libにコピーします。この.jarファイルはLotus Notesクライアントのインストールフォルダー配下に存在しています。

### 【サーバAPI 使用時：V5.5 以降をサポート】

サーバAPI を使用するには、DominoサーバとHTTP 及びIIOP で通信が可能な状態になっている必要があります。Dominoサーバの設定方法につきましては、IBM社のサイトをご確認下さい。

Dominoコンポーネント使用前に以下を実行/確認してください:

- DominoサーバとHTTP 及びIIOP で通信が可能な状態になっている場合、以下のURL がブラウザで参照可能となっているはずです。
- [http://DominoServerName:63148/diio\\_p\\_jor.tx](http://DominoServerName:63148/diio_p_jor.tx)
- **NCSO.jar**ファイルを<Magic xpiインストール先>\Runtime\Java\libにコピーします。この.jarファイルは**Lotus Notes**サーバのインストールフォルダー配下に存在しています。



OUTPERFORM THE FUTURE™

### 【クライアントAPIとサーバAPIの違いについて】

- ・ クライアントAPI の場合  
UserID : NotesClinet のID ファイルのフルパスを指定します。  
RemoteAccess : No を指定します。
- ・ サーバAPI の場合  
UserID : Notes のユーザ名を指定します。(例) MAGIC TEST/MSJ  
RemoteAccess : Yes を指定します。

## Dynamics AX 2012

Magic xpi スタジオおよびMagic xpiサーバでDynamics AX 2012コネクタを使用するには、コンピュータに.NET Framework 4.5.1以降がインストールされている必要があります。コネクタで使用するサービスは、Dynamics AXサーバ上のApplication Integration Framework(AIF)の受信ポートとして最初に定義する必要があります。

Windows SDK 8.1以降を開発時に使用するコンピュータにインストールする必要があります。これは開発時には必須ですが、サーバでの実行時には必須ではありません。

## Dynamics CRM

Dynamics CRMコネクタを使用するには、有効なDynamics CRMアカウントが必要です。技術的な前提条件はありません。追加のjarファイルは必要なく、クライアントのインストールもありません。

## Email

Email コンポーネントを使用してメール サーバにアクセスするには以下の情報が必要です。:

- ・ **SMTP / POP3 / IMAP** サーバのアドレス
- ・ それぞれのサーバのユーザ名とパスワード



## Encryption

特別な準備は必要ありません。

## Exchange

Exchangeコネクタを使用するには、以下の情報が必要です。:

- Exchangeアカウント
- 有効なユーザ名
- 有効なパスワード

## File Archive

特別な準備は必要ありません。

## File Management

特別な準備は必要ありません。

## File Splitter

特別な準備は必要ありません。

## FTP

特別な準備は必要ありません。



OUTPERFORM THE FUTURE™

## Google Calendar

Googleカレンダーコンポーネントを使用するには、OAuth 2.0認証フローを完了する必要があります。詳細は、*Magic xpi*ヘルプの「*OAuth 2.0 Authorization*」トピックを参照してください。

## Google Drive

Googleドライブコンポーネントを使用するには、OAuth 2.0認証フローを完了する必要があります。詳細は、*Magic xpi*ヘルプの「*OAuth 2.0 Authorization*」トピックを参照してください。

## HL7

特別な準備は必要ありません。  
**日本ではサポートされません。**

## HTTP

HTTP コンポーネントの使用およびプロキシ サーバを使用してWeb サイトにアクセスするには**Magic.ini**ファイル内[MAGIC\_ENV] セクションの以下の行を設定する必要があります。:

HTTPProxyAddress = <ProxyAddress>:<Port>

- 例: 10.9.3.16:8080

HTTPTimeout = <Timeout>

- 例: 5000

**i** Magic xpi フロー内でトリガーとして使用するにはWebサーバが必要です。



OUTPERFORM THE FUTURE™

## IBM i

IBM iコネクタを使用してIBM iサーバにアクセスするには、Magic xpiホスト・ライブラリーをIBM iサーバにインストールする必要があります。

## JD Edwards Enterprise One

JDEコネクタを使用するには「JDE Dynamic Java connector」が必要です。この「JDE Dynamic Java connector」がMagic xpi がインストールされているコンピュータ上で正しく設定され、正しく動作していなければなりません。JDE のインストーラーが提供するJDE Dynamic Java connector のサンプルプログラムを用いてテスト/ 確認を行うことができます。

## JD Edwards World

JDE World コネクタを使用するには、DB2/400 データベースサーバにアクセスできる必要があります。

## JMS

JMSコンポーネントを使用するには、JNDI (Java Naming and Directory Interface) を使用してスタンドアロンJavaクラスからJMSサーバーに接続する必要があります。スタンドアロンクラスで使用されているのと同じパラメータとJarをMagic xpi JMS設定に使用することもできます。

## LDAP

特別な準備は必要ありません。



OUTPERFORM THE FUTURE™

## Magic xpa Utility

特別な準備は必要ありません。

## Microsoft Excel

Microsoft® Excel コンポーネントを使用するには、Magic xpi がインストールされたコンピュータ上にMicrosoft® OfficeXP 以降、あるいはExcel2002 以降がインストールされている必要があります。

このコンポーネントを使用するにはMicrosoft Excel に関する知識も必須です。リリースノートの「既知の問題と使用上の制約」を必ずご覧ください。

## Microsoft Word

Microsoft® Word コンポーネントを使用するには、Magic xpi がインストールされたコンピュータ上にMicrosoft® OfficeXP 以降、あるいはWord 2002 以降がインストールされている必要があります。

このコンポーネントを使用するにはMicrosoft Word に関する知識も必須です。リリースノートの「既知の問題と使用上の制約」を必ずご覧ください。

## MQTT

MQTTコネクタを使用するには、MQTTサーバにアクセスする必要があります。

## MSMQ

MSMQ コンポーネントを使用するには、使用するコンピュータにMSMQ サービスがインストールされていなければなりません。またMSMQ コンポーネントを使用してアクセスするキューも定義されていなければなりません。

## .NET Utility

.NETユーティリティを使用したMagic xpi プロジェクトを実行するには、.NET framework がインストールされている必要があります。

.NETユーティリティのソースコードを編集するには、Microsoft Visual Studio .NET 購入する必要があります。

## Notes DB

- **DOMINO**の項をご参照ください。

## OData

特別な準備は必要ありません..

## REST Client

RESTクライアントコンポーネントをプロキシサーバーで使用できるようにするには、以下を変更します。

Magic.iniファイルの[MAGIC\_ENV]セクションの次のエントリ：

- HTTPProxyAddress = <ProxyAddress>:<Port>

例：10.9.3.16:8080

プロキシサーバーのアドレスは、プロキシサーバーを使用しているユーザーのみが設定する必要があります。

RESTクライアントコンポーネントのTimeoutを更新するには、Magic.iniファイルの[MAGIC\_ENV]セクションにある次のエントリの値を変更します。タイムアウトのデフォルト値は0です。

ここでは、デフォルト値0は120秒として扱われます。

- HTTPTimeout = <Timeout>

例：5000



OUTPERFORM THE FUTURE™

## Salesforce

Salesforceコネクタを使用するには、以下を所有している必要があります。:

- Salesforce AppExchangeから利用可能なMagic xpiアプリ。
- Magic xpi salesforce.com ライセンス。
- OAuth認証手続きを行うためのSalesforceの有効な資格情報。

## SAP A1

SAP A1 コネクタを使用するには、SAP A1 に関する十分な知識が必要です。またSAP A1 に接続できる環境が必要です。

## SAPB1

SAPB1 コネクタを使用するには以下が同一ネットワーク上にインストールされている必要があります。:

- SQLデータベース
- SAP Business One server tools
- SAPB1 Data Interface API

SAPB1コネクタはSAP Business One 2004, 2005, 2007, 8.8, 9.xをサポートします。

## SAPERP

SAP ERPコネクタを使用するには、SAP ERPに関する完全な知識があり、機能しているSAP ERPシステム（4.6以降）にアクセスできる必要があります。



OUTPERFORM THE FUTURE™

## ServiceMax

ServiceMaxコネクタを使用するには、以下を所有している必要があります。:

- Salesforce AppExchangeから利用可能なMagic xpiアプリ。アプリケーションのインストールについては、*Magic xpi*ヘルプの「*Magic xpi Salesforce App*をインストールするには？」トピックを参照してください。 *Magic xpi*ヘルプのトピックを参照してください。
- Magic xpi ServiceMaxライセンス
- OAuth認証手続きを行うためのSalesforceの有効な資格情報。

## SharePoint

SharePointコネクタを使用するには、SharePointサーバにアクセスする必要があります。

## Sugar

Sugarコネクタを使用するには、Magic xpi Sugarライセンスを購入する必要があります。技術的な前提条件はありません。

## TCP Listener

特別な準備は必要ありません。

## Validation

特別な準備は必要ありません。



OUTPERFORM THE FUTURE™

## WCF Client

Magic xpi スタジオおよびサーバ実行時にWCF Clientコネクタを使用するには、コンピュータに.NET Framework 4.5以上がインストールされている必要があります。

Windows SDK 8.1以降を開発時に使用するコンピュータにインストールする必要があります。これは開発時には必須ですが、サーバでの実行時には必須ではありません。

**Magic.ini**ファイルに**SVCUtil**, **SvcConfigEditor**, **DotNetCompiler** フラグを設定する必要があります。

## WebSphere MQ

Magic xpi WebSphere MQ コンポーネントを使用するには、Magic xpi がキューにアクセスできるように、ネットワーク内にWebSphere MQ サーバと使用するコンピュータにクライアント ソフトウェアがインストールされていなければなりません。

## XML Handling

XML Handlingコンポーネントを使用するには、XML の動作に関する基本的な知識が必須です。

## XSLT

特別な準備は必要ありません。



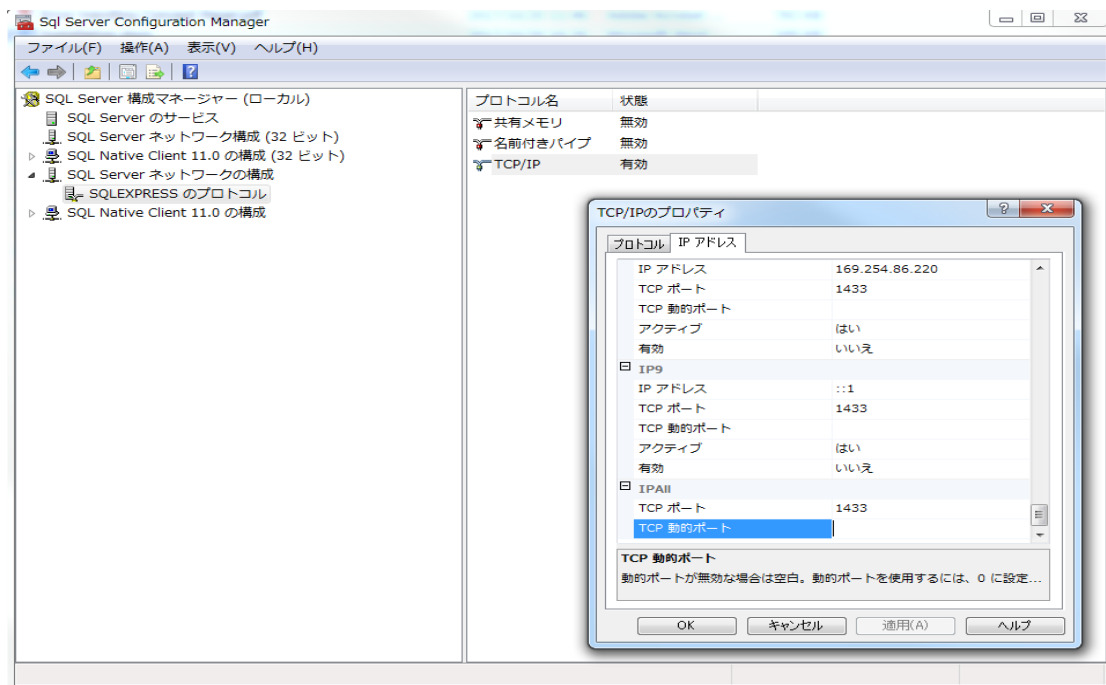
# 4 Magic xpiインストール後の作業

この章では、Magic xpiインストール後の作業について説明します。

## MSSQLの設定

「SQL Server構成マネージャ」を使用し、「SQL Serverネットワークの構成」で「TCP/IP」を有効にし、特性タブで「IPALL」にポート1433を割り当てます。

例：



# GigaSpacesの確認

「GigaSpace UI」を使用し、「GSC」コンテナ内に「MAGIC\_INFO」と「MAGIC\_SPACE」が存在することを確認します。GigaSpacesが正しく動作するにはこの「MAGIC\_INFO」と「MAGIC\_SPACE」が両方存在している状態である必要があります。

存在しない場合はWindowsのサービス等でGigaSpacesを再起動します。

The screenshot shows the GigaSpaces Management Center interface. The main window displays the 'Services' view for the host 'CHIN-CF-B11'. The tree structure on the left shows the following components:

- gsc-2[6952]
  - mginfo-gs.1 [1]
    - MAGIC\_INFO
    - Event Containers
  - mginfo-gs.2 [2]
    - MAGIC\_INFO
    - Event Containers
  - mgmirror-gs [1]
    - mirror-service
  - mgxpi-gs.1 [1]
    - MAGIC\_SPACE
    - Event Containers
  - mgxpi-gs.2 [2]
    - MAGIC\_SPACE
    - Event Containers
- gsc-1[6868]
  - mginfo-gs.1 [2]
    - MAGIC\_INFO
    - Event Containers
  - mginfo-gs.2 [1]
    - MAGIC\_INFO
    - Event Containers
  - mgxpi-gs.1 [1]
    - MAGIC\_SPACE
    - Event Containers
  - mgxpi-gs.2 [2]
    - MAGIC\_SPACE
    - Event Containers

A tooltip is visible over the 'MAGIC\_INFO' service under 'mginfo-gs.2 [2]', displaying 'MAGIC\_INFO\_container2\_1:MAGIC\_INFO'. The status bar at the bottom indicates: Total GSAs: 1 Total GSMs: 1 Total LUS: 1 Total GSCs: 2 Used GSCs: 2 Total Hosts: 1.



OUTPERFORM THE FUTURE™

# 5

## Magic xpi ライセンス

この章では、Magic xpiライセンスとその管理方法について説明します。

### ライセンス管理

Magic xpi は各製品毎に個別のライセンスが必要です。:

ライセンス	説明
<b>Studio</b>	このライセンスでは以下を行うことができます。: <ul style="list-style-type: none"><li>• Magic xpi スタジオの起動</li><li>• Magic xpi プロジェクトの開発</li><li>• デバッガでのプロジェクトのデバッグ</li></ul>
<b>Server</b>	このライセンスでは、Magic xpiサーバを実行できます
<b>Monitor</b>	このライセンスでは、Magic xpi Monitor Serverを使用できます。



## ライセンスタイプ

Magic xpi のライセンスファイルに定義されているライセンスは下記の通りです。

ライセンス	説明
<b>IBNPSTD</b>	Magic xpiスタジオのライセンス。
<b>IBMON</b>	Magic xpiモニタのライセンス。注: このライセンスではMagic xpi スタジオを起動することはできません。
<b>IBNPSRV</b>	テスト用Magic xpi サーバライセンス。このライセンスでは24時間以上Magic xpi サーバを連続稼働させることはできません。
<b>IBPRSRVI</b>	本稼動用Magic xpi サーバライセンス( インテル環境用)



OUTPERFORM THE FUTURE™

## Magic xpi ライセンスファイルのインストール

ユーザ登録用紙をMagic Software Japan K.K. に送付あるいはユーザ登録サイトより必要情報を入力すると、eメールにてライセンスがファイル(以下ライセンスファイル)としてお客様に送付されます。

ライセンスファイルをインストールするには:

1. メールにて送付されたライセンスファイル(License\_XXXXXXX.dat : XXXXXXXXはシリアル番号)を適当なフォルダーに保存します。
2. License\_XXXXXXX.dat ファイルを**License.dat**に改名します。
3. Magic xpi インストールフォルダに**License.dat** ファイルをコピーします。
4. 以下のいずれかのライセンスがサーバの**ifs.ini** ファイルの [MAGIC\_ENV]LicenseName セクションに設定されていることを確認します。
  - **IBPRSRVI**
  - **IBNPSRV**

**.ini**ファイルのライセンス名がライセンス自体のライセンス名と一致しない場合は、関連するログファイルに次のエラーが表示されます。:

"Failed to set the license file parameters."



## ライセンス Features

以下のライセンスは個別に発行され、別売商品として別途購入が必要な場合もあります。ライセンス ファイルがメールで届いたとき、購入したアダプタ/コネクタのライセンスが正しく含まれているかを確認してください。

License	Description
<b>IBA1</b>	SAP A1アダプタのライセンス (別売)。
<b>IBDYCRM</b>	Dynamics CRMアダプタのライセンス (別売)。
<b>IBHL7</b>	HL7アダプタのライセンス (別売)。
<b>IBJDE</b>	JDE E1アダプタのライセンス (別売)。
<b>IBNotes</b>	DOMINOおよびNotesDBアダプタを使用するためのライセンス。
<b>IBR3</b>	SAP R/3アダプタのライセンス (別売)。
<b>IBSBO</b>	SAP Business Oneアダプタのライセンス (別売)。
<b>IBSFDC</b>	Salesforceアダプタのライセンス (別売)。
<b>IBSHAREP</b>	SharePointアダプタのライセンス (別売)。
<b>IBSystemi</b>	IBM i アダプタおよびDataMapperでDB2/400にアクセスするためのライセンス。
<b>IBEXCHANGE</b>	Exchange 2007アダプタのライセンス。
<b>IBJDEWRLD</b>	JD Edwards Worldアダプタのライセンス (別売)。
<b>SERVICEMAX</b>	ServiceMaxアダプタのライセンス (別売)。
<b>SUGCRM</b>	Sugarアダプタのライセンス (別売)。
<b>DYNAX</b>	Dynamics AXアダプタのライセンス (別売)。

注: 上記のライセンスはMagic xpi サーバでを実行する際にチェックされます。Magic xpi スタジオでの開発時にはすべてのアダプタを使用することができます。



# A

## システム前提条件

---

Magic xpiをインストールする際のシステム要件は、下記の開発システムおよび実行システムを参照してください。実行システムは実行するプログラムによって、より大きいコンピュータリソースを必要とする場合があります。使用するWindows®オペレーティングシステムは、互換性ガイドに掲載されているOSを使用してください。リソースが減少するとパフォーマンスが低下する可能性があります。

実行システムについては、アプリケーションの複雑さ、予想されるTPS (Transaction Per Second) や同時実行性によって、追加のリソースが必要になります。

## システム前提条件

### 開発環境

- **メモリー:** 16GB以上
- **CPU:** Dual-core 2.66GHz以上
- **空きディスク容量:** 2GB以上
- **オペレーティングシステム:** Windows 8.1以上
- **Webサーバ:** xpiプロジェクトでHTTPトリガーを使用する場合に必要



## 実行環境

- **メモリー:** 32GB以上
- **CPU:** 2.66GHz以上、および4物理コア（または予約された仮想コア）以上
- **ネットワーク:** 1Gbps以上
- **空きディスク容量:** 1GB
- **オペレーティングシステム:** Windows server 2016以上
- **Web Server:** xpiプロジェクトでHTTPトリガーを使用する場合に必要

### 注:

- IIS7環境下でMagic xpi を移動させるには、各種必要な設定を行う必要があります。詳細は「*Magic xpi Help*」内の「*Magic xpi をIIS7 での環境で実行する*」をご覧ください。
- 上記システム前提条件はMagic xpiサーバのみをインストールする際の条件です。他のMagic xpiモジュールをインストールする際の条件ではありません。
- 上記はシステムの最低限の前提条件でプロジェクト固有の条件は考慮されていません。
- 上記は他のソフトウェアの実行やコンポーネントの設定等条件を考慮しているものではありません。

## データベース前提条件

Windows プラットフォームにMagic xpi サーバをインストールする際は以下のデータベースを使用する必要があります。:

- Oracle Database Server 11g, 12c, 18c, 19c (OCI64bit)
- Microsoft SQL Server 2008, 2008R2, 2012, 2012R2, 2014, 2016, 2019

データベースはMagic xpi サーバと同じマシンに存在する必要はありませんが、同一マシンでない場合はMagic xpi サーバをインストールするマシンに各データベースのクライアントソフトウェアをインストールする必要があります。

